

トピックス

夏かせ 4 疾患の流行状況（愛知県と全国の比較）（第 6 報）

手足口病 ヘルパンギーナ 咽頭結膜熱 無菌性髄膜炎

現在の状況

1 手足口病

例年愛知県では 7 月をピークとする流行が繰り返されていますが、今年も同時期に当たる第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）の定点あたりの報告数は 6.69 と、感染症新法の施行（平成 11 年 4 月）以降最も報告数の多かった平成 11 年第 27 週の 3.91 の 1.7 倍にも達しました。

第 31 週（7 月 27 日～8 月 3 日）現在は 3.6 と減少しており、ピークを過ぎたものと考えられますが、例年と比較して依然として高い水準にあります（昨年の最高値：3.1）。流行発生警報が発令されている地域は第 31 週現在、県内 17 の保健所管轄地域のうち 12 地域（先週は 13 地域）と、現在でも県内の半数以上の地域で警報が発令中です。

一方、全国における報告数も、第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）の定点あたりの報告数 4.55 が、第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には 4.98 と増加しており、過去 10 年間としては、最も報告数の多かった平成 7 年の最高値（約 7.7）程ではありませんが、2 番目に多かった平成 12 年度の最高値（5.85）に迫ろうとしています。

2 ヘルパンギーナ

愛知県で平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 12 年の第 27 週（最高値 6.8）で、例年同時期をピークとする流行が繰り返されています。今年も第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数が 4.0 と最高値を記録しましたが第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日：報告数 3.9）以降は次第に減少し、第 31 週（7 月 27 日～8 月 3 日）現在は 2.1 とピークを過ぎたものと考えられます。また、流行発生警報が発令される地域も第 31 週は前週より一つ少ない 5 地域となっています。

一方、全国における報告数は、第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）の定点あたりの報告数 5.28 が、第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には 5.97 と増加しており、過去 10 年間で最も報告数の多かった平成 13 年の最高値（6.61）に迫ろうとしています。

3 咽頭結膜熱

愛知県で平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 13 年の第 29 週（最高値 0.77）で、例年同時期をピークとする流行が繰り返されています。今年も第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）に 0.63 と急激に増加して最高値を記録しました。その後、第 30 週 0.57、第 31 週（7 月 27 日～8 月 3 日）0.58 と最高値より少なくなはなっています。依然としてピークに近い流行状況と考えられます。

また、流行発生警報が発令されている地域は第 31 週（7 月 27 日～8 月 3 日）現在、主として県内東部に位置する豊田市、豊橋市、岡崎市、それに、豊川及び知多保健所管轄地域の 5 地域となっています。

一方、全国における報告数は、第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）の定点あたりの報告数 0.65 が第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には 0.77 と増加し、これまでの最高値（平成 13 年の 0.56）を更新し続け、過去 11 年間では最大の流行となっています。

4 無菌性髄膜炎

先週もお知らせしましたように愛知県における患者報告数は、今年の 1 月から第 31 週（7 月 27 日～8 月 3 日）までの累積で 8 例だけと非常に少ないだけでなく、第 23 週（6 月 2 日～6 月 8 日）以降は報告数ゼロと全く患者発生が報告されていません。（全国では第 29 週現在の累積 770 例、第 27 週、28 週、29 週の報告数 75 例、97 例、108 例）。この愛知県における無菌性髄膜炎患者の発生報告が非常に少ない事実は、様々な状況から判断して実際に患者の発生数が少ないのではなく、報告義務がある県内の基幹定点医療機関からの報告がキチンとなされていないことによると考えられます。

一方、全国的には第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数 0.16 が第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）には 0.21、第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には 0.23 と増加しており、感染症新法が施行され患者発生数が報告されるようになった平成 11 年以降としては、最も報告数の多かった昨年の最高値（0.50）程ではありませんが、2 番目に多かった平成 12 年度の最高値（0.24）と同程度の報告数と、過去 3 週間における患者発生数の増加が顕著となっています。

以下に、小児、特に 4～5 歳以下の乳幼児が主として罹る手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、無菌性髄膜炎の特徴を簡単にまとめました。

主な症状・感染源・感染経路

1 手足口病

最初、軽い発熱（高くても 38 台）、食欲不振、のどの痛み等で始まり、発熱から 2 日ぐらい経過したころから、手のひら、足のうらに、小水疱が多発します。水疱の周囲の皮膚は、やや赤みを帯びています。舌や口腔粘膜にも小水疱は多発して潰瘍状（アフタ）の生ずることもあります。伝染性のウイルス性感染症で、主にコクサッキー A16 型、エンテロウイルス 71 型などのウイルスによって発症することがわかっています。主な感染経路は、糞便などの経口、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。症例の約 40%では発熱しないといわれています。

2 ヘルパンギーナ

夏風邪の一種であるこの病気は主として 6～7 月頃に流行し、患者の年齢は 4 歳以下がほとんどですが、特に 1 歳代がもっとも多く、ついで 2、3、4、それに、0 歳代の順と言われています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭に赤いリングを持つ小さな水疱があらわれ、それが破れて浅い潰瘍をつくりますが、解熱とともに治ります。

糞便から口を介してうつりますから、保育園など幼児が集団生活を送る場所での流行がよく発生します。

3 咽頭結膜熱

本疾患も夏風邪の一種で、主として 7~8 月頃に流行し、患者の年齢は 5 歳以下が 6 割程度を占めています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血などの眼症状を訴え、3~5 日間程度続きます。

感染経路は、ウイルスによって汚染されたプールの水を介した結膜への直接の侵入やタオルを介した感染、それに、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。

4 無菌性髄膜炎

細菌や真菌などではなく、ウイルスによって起こるために無菌性の名前が付けられました。

かぜ症状の後、熱が続いたり、一度下がった熱が再び上がり、激しい頭痛を訴え、はきけ・嘔吐を繰り返し、首が回りにくくなったり、硬くなる等の症状が現れます。一般的には小児がかかることが多いのですが、大人でも以前に同じ種類のウイルスに感染したことが無い場合には、この病気にかかってしまうこともあるため、家族内で小児から大人にうつることもあります。ほとんどの場合、後遺症が残ることはありませんが、経過が長引くと、回復まで 2 週間以上を要するようになります。

主な原因としては、コクサッキー・ウイルス、エコー・ウイルス、エンテロ・ウイルス、ポリオ・ウイルスなどのウイルスがあげられます。

予防方法・主な合併症

手足口病では、水泡の中にウイルスが多く含まれるため、水泡をできるだけ潰さないようにすることと、内容液が出た場合は他に拡がらないように清潔に保つことが重要です。また、咽頭結膜熱では、プールを介しての流行もあるので、水泳の前後に必ずシャワーを浴びて病原体ウイルスを持ち込まない、持ち出さない注意やプール水の消毒の徹底なども大切です。4 つの疾患ともに感染しても症状の出ていない人、症状の出る前（潜伏期間）の人から、咳・くしゃみや糞便の付着した手・物などを介して感染することがありますので、便・その他の排泄物を扱った後や食べ物を食べる前の手洗い、外出から戻った時のうがい等の実施を、日頃から習慣付けることが大切です。ウイルスの便への排泄は症状が治った後も 3~4 週間ほど続きますので、この間は「おしめ」などからもうつる可能性があります。注意が必要です。

これら 4 疾患はいずれも一般的には軽症の病気ですが、ごく稀には重症化して髄膜炎、脳炎、心筋炎、気管支炎、肺炎などになることが報告されています。経過中に発熱が続き、嘔吐、頭痛、咳などの症状がおこってきた場合には、速やかに医療機関を受診されることをお勧めします。

病原体検出状況

先週の週報でもお願いしましたが、病原体定点（小児科定点に指定されている医療機関の一部）の医療機関の方には、今年の手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、及び無菌性髄膜炎の病原体ウイルス解明の為に是非積極的な検査検体の提出をお願いします。具体的な検体採取、提出要領は管轄保健所へお問い合わせください。

表 1 には 4 月 1 日以降 8 月 5 日までに愛知県衛生研究所に寄せられた疾患別検体数と検出ウイルスの種類および株数を、表 2 には 8 月 1 日現在の全国における病原ウイルス型と分離株数及び平成 10 年度に愛知県の無菌性髄膜炎患者からの分離された病原ウイルス型と検出数を示しました。

表 1

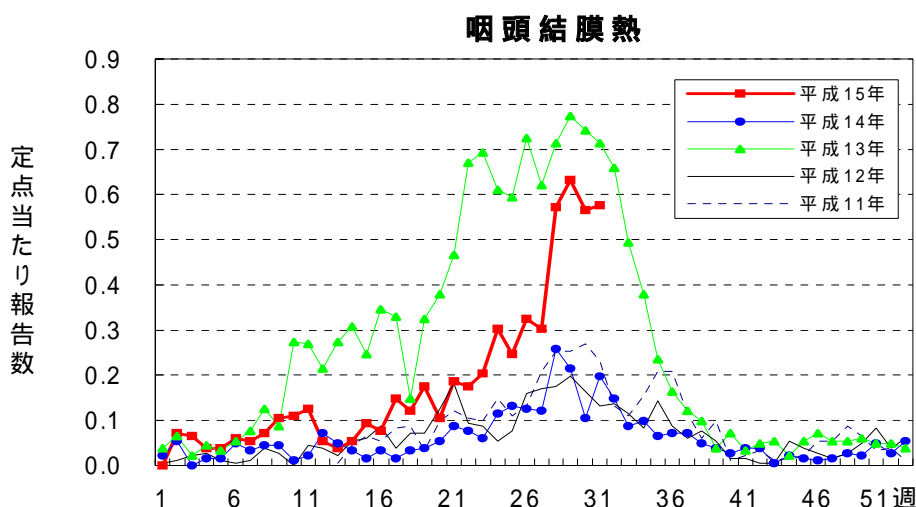
愛知県の手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱・無菌性髄膜炎患者から分離された病原ウイルス（平成 15 年度：4 月 1 日～8 月 5 日と平成 14 年度）			
疾患名	年度	検体数 (患者数)	分離ウイルス型（株数）
手足口病	15	82	コクサッキー A16(7) アデノ 1(1)
	14	45	コクサッキー A16(27) エコー 13(3)
ヘルパン ギーナ	15	48	コクサッキー A6(7) / A16(1) / B3(1)
	14	40	コクサッキー A4(25) / A5(2) / A6(1) / A10(2) / A16(1)
咽頭結膜熱	15	16	なし
	14	5	A 香港型インフルエンザ(1)
無菌性 髄膜炎	15	58	エコー 6(1) / 18(3) コクサッキー B2(1) ムンプス(2)
	14	216	エコー 13(53) / 6(1) / 9(1) コクサッキー B2(3) / B5(1) / A9(1) / A16(1)

表 2

全国の手足口病患者から分離された病原ウイルス（8月1日現在）						
ウイルス（型）	エンテロ 71		コクサッキー A16 / A10 / B / その他の A			
株 数	73		23 / 1 / 1 / 11			
全国のヘルパンギーナ患者から分離された病原ウイルス（8月1日現在）						
コクサッキー ウイルス（型）	A10	A6	A4	A2	A12	A16 / B5
株 数	37	23	20	11	3	1 / 1
全国の咽頭結膜熱患者から分離された病原ウイルス（8月1日現在）						
アデノウイルス （型）	3	2	7	その他		
株 数	42	27	8	24		
全国の無菌性髄膜炎患者から分離された病原ウイルス（8月1日現在）						
ウイルス （型）	エコー 30 / 6 / 13 / 9		エンテロ 71	コクサッキー B1 / B2 / B4		ムンプス
株 数	59 / 28 / 1 / 1		5	7 / 6 / 2		13
平成 10 年度に愛知県の無菌性髄膜炎患者 304 名から分離された病原ウイルス						
ウイルス （型）	エコー 30 / 18 / 9 / 11		コクサッキー B3		アデノ 3 / 2 / 5	エンテロ 71
株 数	145 / 15 / 2 / 1		16		9 / 2 / 2	1

なお、愛知県では検出されていないものの全国的には多数検出されているエンテロウイルス 71 型については、1997 年のマレーシア・サラワク州（ボルネオ島）の、1998 年と 2000 年の台湾での流行時には死亡者（それぞれ 30 名、50 名）も出ています。我が国でも 2000 年には、手足口病患者から分離された病原ウイルス 749 株のうち、エンテロウイルス 71 型が 50%程度を占めていましたが、2001 年（分離株数 390 株）及び 2002 年（同 422 株）にはコクサッキー A16 型が 70～80%程度を占め、エンテロウイルス 71 型は 10%以下でした。なお、愛知県では 8 月 5 日現在全く検出されていませんが、三重県、富山県、大阪府、兵庫県などの近隣府県において同ウイルスが検出されていることから、今後、同ウイルスが愛知県内で流行することも充分考えられます。各医療機関における手足口病患者の診療に際し、このことをご考慮くださると共に、病原体検査定点からの検体提出を、重ねてお願いいたします。

流行状況

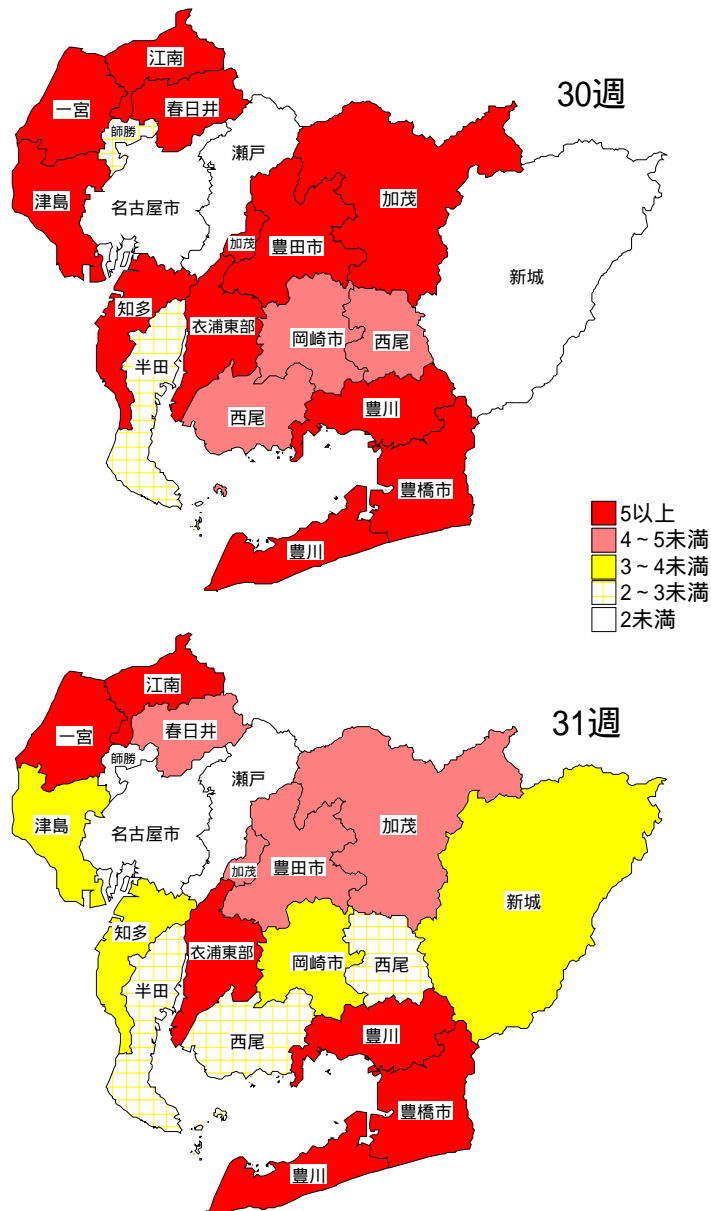


疾患名	前週	今週	備考
<u>手足口病</u>	4.6 ↓	3.6 ↓	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<u>ヘルパンギーナ</u>	2.6 ↓	2.1 ↓	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	0.87 ↓	0.65 ↓	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症 外から帰った時には、必ず手洗いとうがいをしてください。
<u>咽頭結膜熱</u>	0.57 ↓	0.58 ↑	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<u>麻疹(はしか)</u>	0.06 ↑	0.01 ↓	予防にはワクチンが有効
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.31 ↓	0.85 ↑	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 5定点からコメントでの患者発生報告あり
<u>無菌性髄膜炎</u>	- →	- →	細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと コメントでの患者発生報告なし

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
→ 横ばい	↑ 増加	↓ 減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

手足口病の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

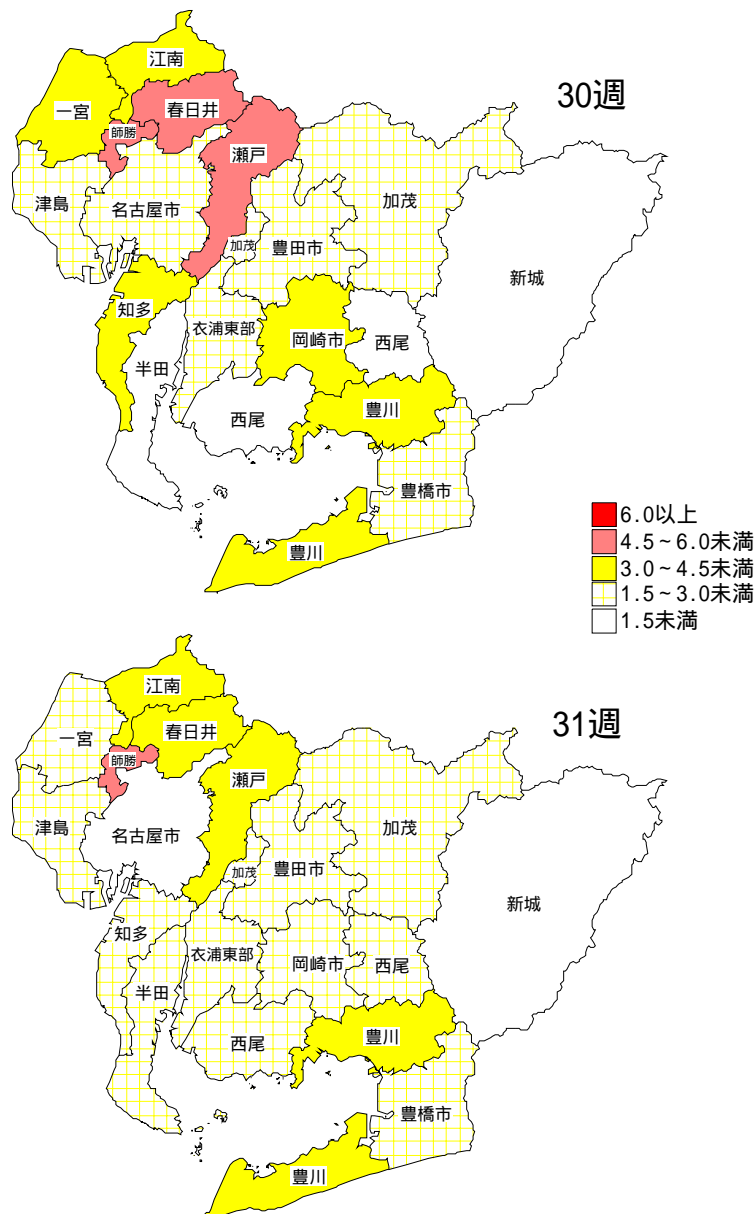


	31週	定点 当たり	30週	定点 当たり		31週	定点 当たり	30週	定点 当たり
名古屋市	116	1.66	120	1.71	岡崎市	24	3.43	29	4.14
瀬戸	14	1.56	15	1.67	衣浦東部	74	6.73	82	7.45
津島	24	3.43	66	9.43	西尾	10	2.00	20	4.00
師勝	5	1.25	9	2.25	豊田市	37	4.63	41	5.13
一宮	66	5.50	71	5.92	加茂	13	4.33	15	5.00
春日井	40	4.44	55	6.11	豊橋市	59	7.38	105	13.13
江南	51	8.50	54	9.00	豊川	75	9.38	110	13.75
半田	14	2.33	13	2.17	新城	6	3.00	1	0.50
知多	24	3.43	39	5.57					

■は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる手足口病の流行発生警報は保健所(市)定点当たり5.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

ヘルパンギーナの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

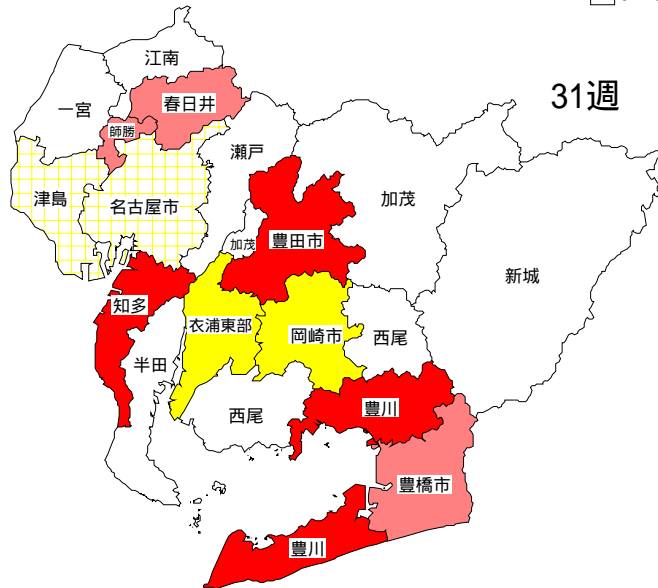
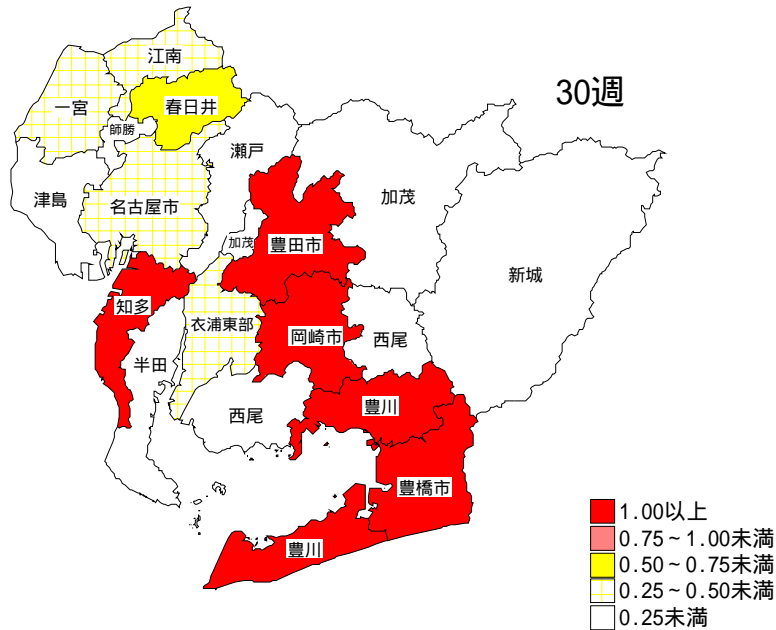


	31週	定点 当たり	30週	定点 当たり		31週	定点 当たり	30週	定点 当たり
名古屋市	97	1.39	131	1.87	岡崎市	18	2.57	28	4.00
瀬戸	28	3.11	44	4.89	衣浦東部	21	1.91	23	2.09
津島	12	1.71	19	2.71	西尾	8	1.60	6	1.20
師勝	19	4.75	23	5.75	豊田市	22	2.75	17	2.13
一宮	24	2.00	37	3.08	加茂	6	2.00	7	2.33
春日井	36	4.00	42	4.67	豊橋市	20	2.50	17	2.13
江南	20	3.33	21	3.50	豊川	27	3.38	28	3.50
半田	10	1.67	5	0.83	新城	0	0.00	0	0.00
知多	20	2.86	27	3.86					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるヘルパンギーナの流行発生警報は保健所(市)定点当たり6.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	31週	定点 当たり	30週	定点 当たり		31週	定点 当たり	30週	定点 当たり
名古屋市	31	0.44	29	0.41	岡崎市	4	0.57	9	1.29
瀬戸	1	0.11	2	0.22	衣浦東部	7	0.64	5	0.45
津島	3	0.43	0	0.00	西尾	0	0.00	0	0.00
師勝	3	0.75	0	0.00	豊田市	15	1.88	20	2.50
一宮	2	0.17	3	0.25	加茂	0	0.00	0	0.00
春日井	8	0.89	5	0.56	豊橋市	7	0.88	10	1.25
江南	0	0.00	2	0.33	豊川	15	1.88	10	1.25
半田	0	0.00	0	0.00	新城	0	0.00	0	0.00
知多	9	1.29	8	1.14					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌O1 8歳女
病原性大腸菌O18 1歳男
病原性大腸菌O25 3歳女
病原性大腸菌O124 7歳女
病原性大腸菌O166 2歳男

エンテロウイルス感染症と思われる感染症が、再び増加しており 39～40度の高熱が2～3日続き、WBCはupしませんが、CRPが5前後まで上昇する例が増えております。

【尾西市 城後小児科】

生後2ヵ月と3ヵ月の手足口病が2人いました。いずれも発熱2日間あり。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

3歳、4歳兄弟 手足口病7月に2回罹患

【一宮市 平谷小児科】

33歳男 咽頭結膜炎1例あり。

【一宮市 ふなはし眼科】

サルモネラO8 5歳女

【犬山市 武内医院】

夏休みに入り 感染症の患児 少なくなっています。
手足口病の流行が続いています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

手足口病の多発が続いています。
ヘルパンギーナも多いようです。
その他水痘 続発中

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

30歳男 マイコプラズマ肺炎

【師勝町 師勝クリニック】

手足口病、ヘルパンギーナ減少してまいりました。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

マイコプラズマ肺炎(6歳男、6歳男、9歳男)を含む肺炎が多い。
ヘルパンギーナ相変わらず多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週もヘルパンギーナ多くみられました(手足口病はあまりみられませんでした)。

溶連菌感染症も何例かみられました。
流行性耳下腺炎、伝染性紅斑小流行あり。

6歳女アデノウイルス感染症(迅速検査キットで陽性)

マイコプラズマ肺炎数例(家族内感染もあり 児 両親)

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

5歳男 サルモネラ腸炎

【尾張旭市 旭労災病院】

流行性角結膜炎患者 アデノウイルス抗原検出 陽性 1分(+)

【瀬戸市 医療法人有竹眼科】

発熱と嘔吐のある患者が多数

手足口病、ヘルパンギーナ続いています。

水痘、ムンプス、リンゴ病少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ヘルパンギーナが流行しています。

咽頭結膜熱もみられました。

【春日井市 かちがわ北病院】

水痘が多い様です。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

水痘なし。

【小牧市 小牧市民病院】

胃腸カゼ多し(下痢、嘔吐、発熱)

【南知多町 医療法人大岩医院】

喘息発作の方が多かった様に思えます。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

前週と今回、1歳児の伝染性紅斑が1名ずつあり。同学区の様です。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳女 病原大腸菌 O25

5歳男 カンピロバクター腸炎

7歳女、2歳男、3歳男 イムノカードS Tアデノウイルス*1(+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

*1 イムノカードS Tアデノウイルス：アデノウイルス抗原検出キット

3歳女 病原性大腸菌 O18、サルモネラ

【岡崎市 医療法人深田小児科】

1歳男 カンピロバクター

【岡崎市 花田こどもクリニック】

4歳男 ICアデノ*2(+)

1歳女 手足口病再発(6月に+)

8歳女 カンピロバクター

4歳女 サルモネラ O7

1歳男 病原性大腸菌 O25 VT(-)

1歳女 病原性大腸菌

【岡崎市 にいのみ小児科】

*2 ICアデノ：アデノウイルス検出キット

3歳男 サルモネラ O4

1歳男 病原性大腸菌 O1

0歳男、3歳男 カンピロバクター

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

ムンプスが小流行しています。

【刈谷市 まついこどもクリニック】

1歳男 病原性大腸菌O128 VT(-)、O1 VT(-)

11歳男 カンピロバクター

11歳女 マイコプラズマ

【幸田町 とみた小児科】

手足口病が流行中です。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

5歳女、6歳女カンピロバクター

10歳女 帯状疱疹(7年6月水痘感染)

マイコプラズマ肺炎の児が時々います。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

マイコプラズマ肺炎2人 12歳男、7歳男

【豊橋市 野村小児科】

3歳女 病原大腸菌O25検出 経過は良好

【田原町 かわせ小児科】

男児：生後2ヵ月半にて水痘に罹患。兄からうつる。経過は軽い。

【田原町 かわせ小児科】

1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

発生報告無し

全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

発生報告無し

第29週(15年7月14日~7月20日)の4類感染症 (全国)

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は大きく増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県(2.9)、長野県(1.9)、香川県(1.8)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少して0.20であるが、過去4年間と比較してかなり多く、都道府県別では岩手県(0.8)、山形県(0.7)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では、山形県(2.3)、埼玉県(2.0)、宮崎県(2.0)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微減したが、5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では鳥取県(6.2)、福井県(6.0)が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では広島県(20.6)が依然として非常に多く、次いで山口県(12.0)、埼玉県(9.6)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少し、都道府県別では三重県(1.0)、北海道(0.9)、宮城県(0.9)、福井県(0.9)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加し、都道府県別では宮城県(17.9)、山形県(13.4)、福島県(13.0)が多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は微増して1.21で、都道府県別では熊本県(7.3)、愛媛県(3.9)が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は微増して0.23で、都道府県別では奈良県(1.5)、大阪府(1.1)、広島県(1.1)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第31週(平成14年12月30日～平成15年8月3日)(累計)

愛知県衛生研究所

		定点数																									
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹*
愛知県 (名古屋市を含む)		##	##	35	51	13	47,885	1,037	6,489	25,346	10,690	8,509	1,201	3,954	44	47	5,100	122	3,529	29	707	1	5	8	119	0	4
総数 (名古屋市は除く)		##	##	24	37	12	38,580	763	4,695	17,381	8,561	7,266	952	3,177	35	31	3,580	92	2,823	24	527	1	5	7	115	0	4
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	9,305	274	1,794	7,965	2,129	1,243	249	777	9	16	1,520	30	706	5	180			1	4		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,755	54	749	1,042	398	153	23	174	4	1	398	4	324	1	32						
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,341	43	87	1,219	463	825	52	159	1		208	2	118		16				10		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		1,378	10	109	1,057	124	144	19	77		5	353	1	100		10						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,712	22	346	2,140	694	682	113	377	5	1	253	2	212	1	16			1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4,291	56	371	1,165	555	610	126	270	3	4	340	4	256	1	41	1	2	2			1
	江南	6	6	1	2		1,520	32	292	1,631	492	575	79	235	1	1	150		87		28						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,915	16	169	633	186	74	15	168		1	128	1	184		13			1		10	2
	知多	7	7	2	2		2,364	90	426	1,168	591	256	56	231		1	262	27	76	2	29						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	4,159	25	289	187	873	452	93	374	5		274	1	420	3	45						
	衣浦東部	11	11	2	4	1	5,878	49	367	1,156	1,062	744	91	291	4	1	303	11	504		79			2	7		
	西尾	5	5	1	2	1	1,190	11	219	612	406	283	73	130	1	2	122	7	134		37			1	6	1	
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	2,409	65	207	1,146	769	315	45	181	8	11	238	8	226	7	88			1	29		
	加茂	3	3		1		489	15	199	384	133	95	7	38		3	63		37								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,088	195	551	2,374	808	1,009	90	270	1		232	14	36	7	57		2		25		
	豊川	9	8	1	2	1	2,839	80	312	1,467	959	1,024	70	184	2		255	7	90	2	36				28		
東三河北部	新城	2	2			1	252		2		48	25		18			1	3	19								

* 西尾保健所より27週分(マイコプラズマ肺炎:1件)、29週分(成人麻疹:1件)の追加報告あり

愛知県感染症情報

2003年第1週～第31週(平成14年12月30日～平成15年8月3日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎 (日本脳炎を除く)	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹*
計	38,580	763	4,695	17,381	8,561	7,266	952	3,177	35	31	3,580	92	2,823	24	527	1	5	7	115	0	4
～6ヶ月	518	5	10	194	218	59	5	257	6		50	2	2		1	/	/	/	/	/	/
～12ヶ月	1,096	24	23	1,106	508	351	33	1,943	9	2	328	16	17		11	/	/	/	/	/	/
0歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1		1	/	/
1歳	3,227	128	116	2,686	1,534	1,280	59	901	6	4	884	19	121		13	/	/		11	/	/
2歳	3,245	117	271	1,989	1,440	1,259	80	63	3	2	656	7	207	1	12	/	/		11	/	/
3歳	3,321	119	583	1,967	1,583	1,387	108	4	3	1	643	6	427	2	16	/	/		11	/	/
4歳	3,516	105	883	1,739	1,526	1,242	134	1	3	3	443	6	577		8	/	/		9	/	/
5歳	2,262	102	887	1,343	927	820	135	1	1	5	300	3	562	1	13	/	/	/	/	/	/
6歳	1,825	48	684	985	385	376	130	3			124	7	332		3	/	/	/	/	/	/
7歳	1,466	39	384	770	153	169	83		1	4	55	2	189		3	/	/	/	/	/	/
8歳	1,304	31	275	633	102	111	78	3		3	25	3	131		5	/	/	/	/	/	/
9歳	1,336	12	156	492	55	50	32			1	27	2	71		3	/	/	/	/	/	/
5歳～9歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	25	/	/
10歳～14歳	4,859	13	208	1,107	82	68	56	1	2	2	19	14	116	1	24	/	/		19	/	/
15歳～19歳	1,573	3	18	298	8	6	1				6	3	10		24	/	/		3	/	/
20歳～	/	17	197	2,072	40	88	18		1	4	20	2	61			1	4	/	/	/	/
20歳～29歳	2,768	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	9	81	/	/	2	7	/	2
30歳～39歳	3,054	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	112	/	/	1	7	/	1
40歳～49歳	1,182	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	53	/	/	2	4	/	1
50歳～59歳	892	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	71	/	/	/	1	/	/
60歳～69歳	597	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	42	/	/	/	2	/	/
70歳～	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	32	/	/	/	/	/	/
70歳～79歳	352	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	/	/
80歳以上	187	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	/	/

* 西尾保健所より27週分(マイコプラズマ肺炎:1件)、29週分(成人麻疹:1件)の追加報告あり